Case 02

（株）本田技術研究所 ｜ Honda R&D Co., Ltd.

研究所の最先端技術を地方自治体に実装

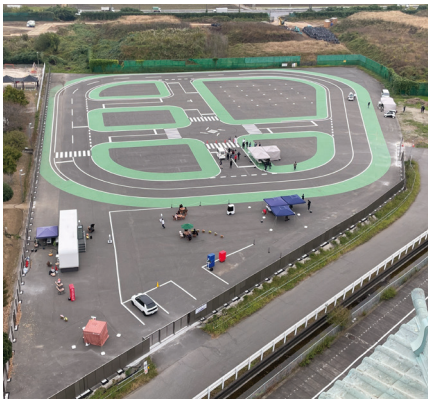
AI まちづくり

ブランディング　マーケティング　プロセスイノベーション　事業創造　組織改革

最先端まちづくりを絵に描いた餅で終わらせない

本田技術研究所主催のイベントで、AIの拡張性や豊かな社会について、弊社代表がAIエンジニアや大学教授と共に、議論したところから本プロジェクトは始まりました。
イベントでの議論を妄想で終わらせないためには、実行力のある旗振り役が必要です。

また、まちづくりには、研究所と自治体をはじめ、多くのステイクホルダーが絡むため、それらの方々の想いを理解し、あいまをとりもつ役割も不可欠でした。
そういったプロジェクト推進者としての役割を期待され、弊社は本実証事業に参画しました。



立場の違う研究所と自治体を繋ぎ、未来を描く

実証事業のフィールドとして選ばれたのが、本田技術研究所が掲げる「『移動』と『暮らし』の進化」に共感いただいた茨城県常総市。
こういった実証事業では、立場の違う研究所と自治体が同じ未来を描き、その未来を共に目指すことが重要です。

弊社には行政に長く勤めたメンバーもおり、行政の立場も民間の立場も理解した上で、あいまを取り持つことが可能です。

その結果、結ばれたのが「AIまちづくりへ向けた技術実証実験に関する協定」。
この協定により、技術実証実験を行える「AIモビリティパーク紫峰」が市有地を利用して誕生するなど、実証事業の推進に大きく寄与することとなりました。

構想から 2 年で、技術実証の環境整備を実現

「AIモビリティパーク紫峰」での研究から、今では、アグリサイエンスバレー常総にて、一般の訪問者に試乗体験を提供するところまで、技術実証事業は進行しています。
この技術実証においては、アグリサイエンスバレー常総内の「道の駅常総」から観光農園「グランベリー大地」までの環境整備を、行政及び地元事業者と行うなど、研究所と地域とのあいまをとりもつ役割を担いました。

また、技術実証にとどまらず、AIまちづくりを長期的に推進するために、研究所と行政の若手職員によるプレコンソーシアムをも立ち上げました。
ここからも官民共創による活動が生み出され、最先端まちづくりを着実に推進していきます。

Date ｜ Feb, 2022 –
Industry ｜ Car Manufacturer
Keywords ｜ 現場理解、ニーズ発掘、ロードマップ策定、事業化支援